

5. 栄養生命科学教育部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 13)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 13)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 多職種連携教育を実施するがん専門栄養士コースは、多くのがん病態栄養専門管理栄養士が修了しており、外部評価において指導的専門管理栄養士の育成を担う博士課程のモデルコースとして極めて高く評価されている。
- 蔵本地区5教育部において国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム「モンゴルとASEAN 諸国における国際高度医療人育成プログラム」が採択された。
- 蔵本地区5教育部では、21世紀における世界的課題である人間環境、栄養、保健、感染予防並びに医薬の分野における諸問題に対応できるように、世界の各国で活躍できる教育・研究者及び行政の専門家を育成することを目的として、「統合医療学際教育英語プログラム」を開設している。外国人留学生は、入学から学位取得まで、英語のみで修了できるようカリキュラムが編成されている。医学、栄養学、保健学、歯学、薬学に関する講義を総合的に包括して英語で行っており、日本人学生も履修できる。実習、セミナー等も英語で行っており、WHO、JICA等の国際的な場で活躍できる人材を養成するとともに、英語で討論する力を養っている。
- 臨床栄養学コース及び臨床腫瘍栄養学コースでは、臨床栄養管理学実習、腫瘍栄養管理学実習、がん栄養学実習の各科目において、徳島大学病院及び地域の関連病院において栄養管理に関する実務実習を行っている。また、臨床腫瘍栄養学コースでは、腫瘍栄養管理学演習及びがん栄養学演習において、徳島大学病院のキャンサーボードに参加させている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。